

働くことで歯車になる

広島県・広島市立基町高等学校 1年 山手 瞳

私の周りには、父母や祖父母、先生や毎朝お世話になるバスの運転士さんといったように社会に出て働いている人はたくさんいる。だがその人たちがなぜ働いているのかを考えてみると実際に働いたことのない私には完璧な答えは出てこなかった。だが働く人たちが「給料」を働くことの目的の一つにしているというのは確かなことのような気がする。私がそう思うのは、働いている父を見ているからだ。父の給料日には私たち子供に、おこづかいが入ってきて、不足しているものはないかと尋ねられ、もしあればそれを買ってくれる。また私の高校の学費から塾の学費など何から何まで父の給料が入る口座から引き落とされているので私たち家族の生活は父の「給料」によって成り立っているといえる。父は働くことで私たちを養う「お金」を作っているのだ。私が思った自分たちのために働くという働く理由が世の大人が働く理由の一つになっているとすればほかに、働く理由や意味はないのか。研究して考えてみた。

まず私は、「働く」ということの根本的な仕組みを調べた。すると「働く」というのは、労働者が企業などに雇われて労働をし、企業側からの給料を受け取るというものであった。企業と労働者のつながりは、前に社会の授業で習った、「企業」と「家計」のつながりを表していることに気がついた。このつながりは経済の循環のつながりの一部である。

つまり「働く」ということは、その経済循環のサイクルは「労働」がないと回らないから、その経済循環のサイクルの上で、欠かせない存在であるとも言えるのだ。

次に私は、「働く」ということに必ずついてくる「給料」について調べてみた。たまたま辞書に「給料」の英語である「salary」という単語の語源があったので読んでみた。そこには、「salary」の「sal」が「塩」という意味で、「ary」が「一に関する」という意味、つまり全体的に「塩を買うためのお金」という意味を持っていると書いてあった。塩というのは昔から人間の生活に欠かせないものだったと聞いたことがあるから、「給料」というのは大事なものを買って生きていくための命綱のようなものだったのかもしれない。その命綱を離さないように一生懸命に働いていた当時の様子は私の父をみればわかるように現代に受け継がれていると思う。

「働く」ということと「給料」について調べて全体的に思ったことは、労働者は今も昔も自分たちが生きるために、そして経済循環の流れのサイクルの歯車として社会を支えるために働いているとわかった。経済の仕組みが今のように整ってない昔でも「働く」ということがないと塩を売る人が儲からないのはもちろん、文明も発達しなかったはずだ。私が最初に思っていた、人は自分たちのお金のためだけに働くという考えは、まだまだ狭

かったようだ。働くことで経済の流れ、つまりお金の流れは水圧を増し、ついには自分たちの知らない所まで流れていく。この流れで社会は成り立っているのである。私たち子供が学校に行けたり、義務化されている予防接種を無料で受けられたり、公園で遊べたりするのはすべてこの流れのおかげだ。だからある意味、大人になって働くことは、今まで自分を育ててくれた社会への恩返しと、次世代を育てていく者として責任を持つということでもあると思った。

このように私は働くことの意味について考えてみたわけだが、どうしてもこの自分が考えたことがあてはまっているのかわからない人たちがいる。それが定職に就かずアルバイトを転々としている人や、気が向かないと働かない人のことである。このような人たちはたいてい親の協力もあって生活にあまり困っておらず、ただちょっと高価な物がほしくなったからと、欲求を理由に働くと思われる。この人たちには私が先ほど述べた社会のために、周囲のために働くという自覚がないのか。別に私は欲求を理由の一つにして働いてはいけないと言っているのではない。働く理由まで規則化されているのは変な話だ。ただ私が本当に言いたいのは、社会の経済のサイクルの中で働いている労働者の一人ひとりが、その大事な歯車であるということを忘れないでほしいということである。これを心に入れておくことで、自分に使命感を覚え、どんな仕事にも力が入って、経済はもっともっと発展していくだろう。今、この社会で生きている一人ひとりが日本の経済にとって

とても大事なのだ。きっと私がサイクルを回す日もそう遠くはない。

これから自分も社会に出て行くことになるわけだが、その準備として、高校生の今の私にはなにができるだろう。働くことは、自分や家族、そして社会を支えることだと考えたが、今の自分にはまだ漠然としか、見えてこない部分もある。その漠然としたものを、経済のサイクルの歯車として使命感にしなければならない。とすると今の自分に必要なのは、働けるだけの知識を身につけることと、まだ労働者ではない身として労働者に感謝することが大事だと思われる。今のうちから労働者について知り、感謝することにより未来の自分がより鮮明に現れてくる。そんな未来の自分へのインプットが歯車の大きさを左右する。目標に向かって努力するほど歯車は大きくなる。それは別に高学歴とか関係なく、どれだけその仕事に向けて使命感を得るために努力したかである。どんな仕事でも、努力の大きさが同じなら、歯車は同じ大きさの同じスピードで回る。すべての人に歯車を回す力はある。「働く」というのは、自分のためだけのものではないから、ときにつらいこともあるだろう。だが先ほども述べたとおり、働くだれもがこの社会において必要とされている。また働いた時間は、後にいろいろなものための「お金」になるとわかった。働いて税金を住んでいる町に納めれば、その町にプラスなことがあり、貢献した者として達成感が得られる。働く歯車になれることのほかにこのようなすばらしいお返しもあるのだ。私は将来大きな大きな歯車になろうと思う。